
スリングシート(吊り具)

取扱説明書

この度はスリングシートをご購入いただき、誠にありがとうございます。

※ 本製品を正しくお使い頂くために、ご使用になる前に必ず、この「取扱説明書」をお読みください。

※ 内容をご理解頂き、記載事項はお守りください。

※ この「取扱説明書」は、いつでもご覧頂けるよう、大切に保管してください。

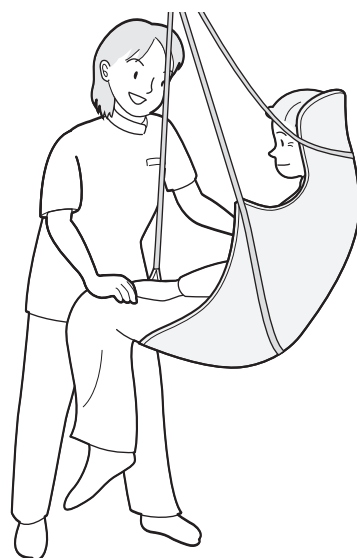
株式会社 竹虎 ヒューマンケア事業部

スリングシート(吊り具)

スリングシート(吊り具)各種は、
移動用リフト(天井走行リフト・据置式リフト・床走行式リフト・
固定式リフト)にお使い頂くものです。
介護者・ご利用者・それぞれの負担を軽減させ、
寝室・居室をはじめとして浴室・トイレなどあらゆるお部屋で
ご使用頂けます。

【製品を安全・快適にご使用頂くために】

- 介護者のご利用者の身体状況を常に把握し、無理のない体調・姿勢でご使用ください。
- P.22の「点検／保管」を必ず守って頂き、リフト本体およびリフト関連製品(スリングシート(吊り具)・各種ベルト類・レール等)の安全を確認してください。





目次

| | |
|--------------------|----|
| 安全上のご注意 | 3 |
| スリングシートについて | 5 |
| ○ 各部名称 | 5 |
| ○ スリングシートの種類 | 6 |
| ○ 姿勢調節 | 7 |
| ご使用になる前に | 7 |
| スリングシートの使い方 | 8 |
| ○ 車いす（背上げ機能のあるベッド） | 8 |
| ○ 布団やベッド（仰臥位） | 12 |
| ○ 車いすへ降ろす | 15 |
| ○ スリングシートのはずし方 | 17 |
| ○ 特殊なスリングシートの場合 | 18 |
| ○ トイレでのスリングシートの使い方 | 19 |
| ○ 入浴でのスリングシートの使い方 | 20 |
| お洗濯・点検／保管 | 22 |




安全上のご注意

ここに記した注意事項は、製品を安全に正しくお使い頂き、
お使いになる方や他の方への危害・財産への損害を未然に防止するためのものです。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

■誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の警告表示で区分し、説明しています。



| | |
|--|--|
|  警 告 | 「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」 内容を説明しています。 |
|  注 意 | 「障害または財産への損害が発生する可能性が 想定される」内容を説明しています。 |

■お守り頂く内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

| | |
|---|----------------------------|
|  | 必ず実行して頂く「強制」内容を説明しています。 |
|  | してはいけない「禁止」内容を説明しています。 |
|  | 気をつけて頂きたい「注意喚起」内容を説明しています。 |





警告

| | |
|---|---|
|  強制 | <ul style="list-style-type: none">●身体にあったスリングシートを選んでください。 大きすぎたり小さすぎたりするスリングシートを使用すると、身体をしっかり包めずケガをする恐れがあります。●ご使用の際には、医師、看護師、理学・作業療法士などの専門家にご相談ください。 スリングシートの選び方やサイズなどがわからない場合は専門家にご相談ください。●取扱説明書の内容を理解・実行できない方には、操作させないでください。 取扱説明書には安全に使用する上での重要な事項が書かれています。この内容を理解し、実行できない方が操作すると、事故の原因となります。●使用前に必ずスリングシートにほつれ、傷、破れがないかを点検してください。●吊り上げるとき、スリングシートにしわやねじれがないか注意してください。 しわやねじれがあると、乗っている方が痛みを覚える原因になります。●人以外のものを吊り上げないでください。 スリングシートの破損につながります。●リフトが頭部の近くを通るときは、本体を必ず手で引っ張り、頭部から離してください。●トイレスリングは、脚や腋下（わきの下）の負担がフルスリングやローバックスリングより大きくなります。 肩が持ち上げられ、臀部（お尻）が落下した姿勢になることがあります。もう一度ベッドに降ろしスリングシートを装着し直します。●塩素系漂白剤は絶対に使用しないでください。 生地が傷み、ほつれや破れなどの原因になります。 |
|  禁止 | <ul style="list-style-type: none">●座る姿勢がとれない方は、トイレスリングを使って移動することはできません。●肩ストラップをはさむのが、腋下（わきの下）よりも低い位置だと、吊り上げたとき体が反り返って落下する恐れがあります。 必ず腋下（わきの下）ではさんでください。 |

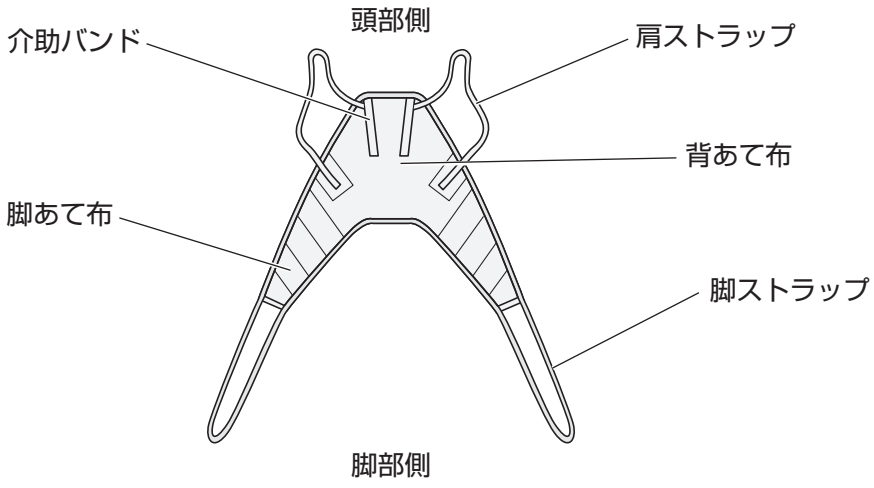
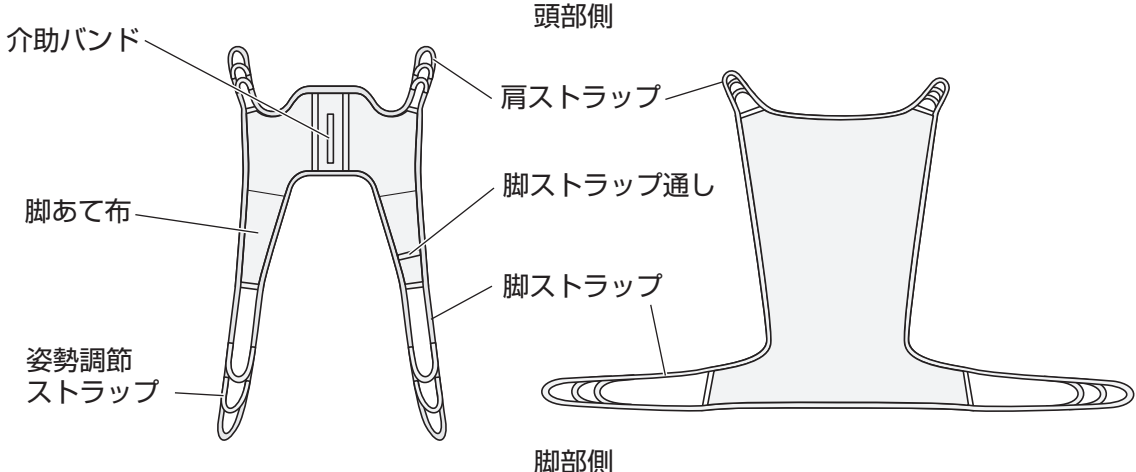
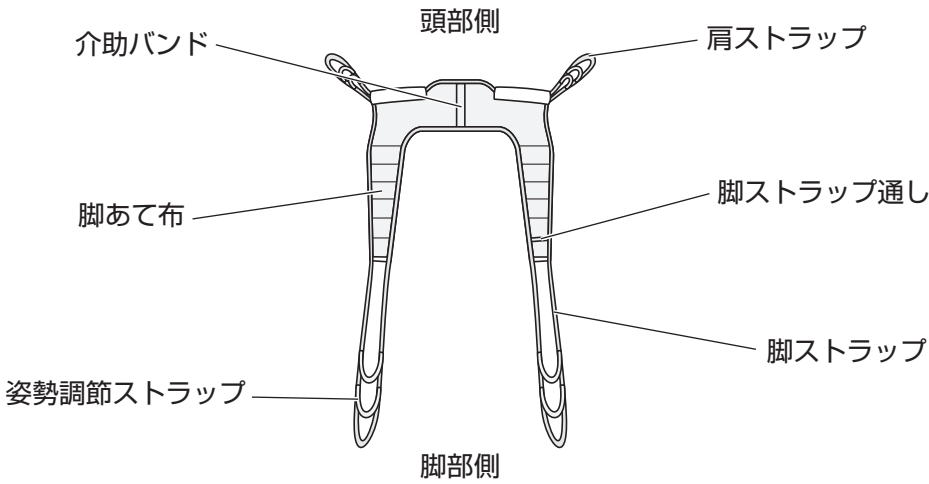


注意

| | |
|---|--|
|  強制 | <ul style="list-style-type: none">●スリングシートの外側と内側を間違えないでください。 ネームタグがついている方が外側になります。●スリングシートの頭部側と脚部側を間違えないでください。 ネームタグがついている方が頭部側になります。 事故・ケガの原因になります。●リフトに人を乗せるときは、レールの真下の位置で乗せてください。 |
|  禁止 | <ul style="list-style-type: none">●浴槽の中でスリングシートを正確に装着することは困難です。スリングシートを付けたまま入浴することをお勧めします。 大腿（太もも）の下のしわを取り除いたり、臀部（お尻）を深く覆うことは浴槽の中では困難です。●床ずれがあるときは、スリングシートを強く引っ張らないでください。 床ずれを悪化させる恐れがあります。●性をスリングシートではさまないでください。 男性の場合は性をスリングシートではさまないよう注意してください。 |

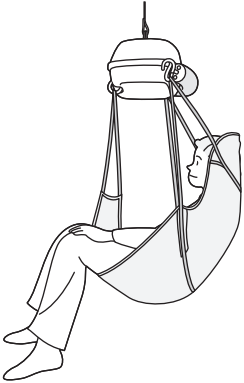
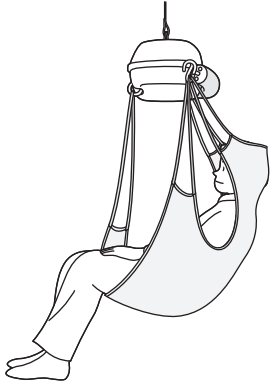
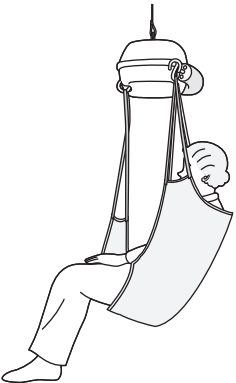
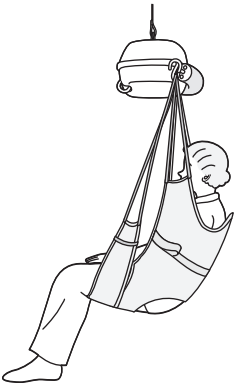
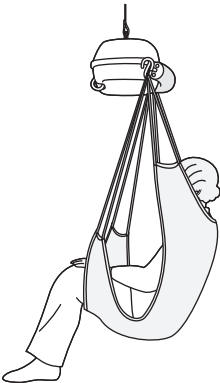
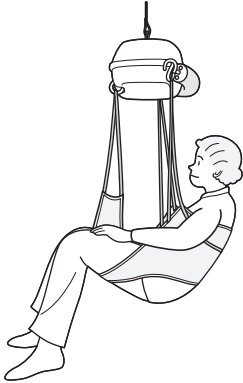
スリングシートについて

各部名称

| | |
|-----------|--|
| フルスリング |  |
| ローバックスリング |  |
| トイレスリング |  |

※スリングの種類によっては、介助バンド、姿勢調整ストラップ、脚ストラップ通しのないタイプもあります。

スリングシートの種類

| | | |
|------|-----------|---|
| | フルスリング | <p>・ フルスリングメッシュタイプ 25005</p>  <p>・ ハイバックメッシュタイプ 25015</p>  |
| 脚分離型 | ローバックスリング | <p>・ ローバックメッシュタイプ 25035 ・ 切断者用 25040・21160 ・ シート型スリング 25060</p>    |
| | トイレスリング | <p>・ トイレスリング 25080</p>  |

サイズ表

スリングシートのサイズは身体の大きさや疾患によって選択してください。

| サイズ | 体重 (kg) |
|-----|---------|
| S | 30～60 |
| M | 55～90 |
| L | 85～120 |
| XL | 100～140 |

ジュニアサイズ

| サイズ | 体重 (kg) |
|-----|---------|
| J/S | 15～20 |
| J/M | 20～35 |
| J/L | 35～50 |

警告



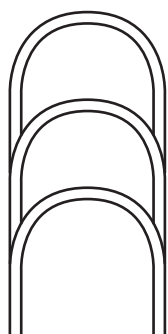
強制

- 身体にあったスリングシートを選んでください。
大きすぎたり小さすぎたりするスリングシートを使用すると、身体をしっかりと包めずケガをする恐れがあります。
- ご使用の際には、医師、看護師、理学・作業療法士などの専門家にご相談ください。
スリングシートの選び方やサイズなどがわからない場合は専門家にご相談ください。

姿勢調節

ストラップの調節

吊り上げたときの姿勢は、肩部、および脚ストラップの吊り下げ位置を変えることにより調節します。肩部、脚部、頭部ストラップ共 3 段階に調節することができます。



①黒色

②黄色

③赤色

- ・頭部および肩ストラップの吊り下げ部を①から③番に変えていくと、姿勢は立っていきます。脚ストラップの吊り下げ部を①から③番に変えていくと姿勢は寝ていきます。
- ・すべてのストラップを同時に、一段ずつ①から③番に変えていくと、姿勢は変わらずに本体もしくはハンガーに頭が近づいていきます。
- ・リフトの種類や使用状況、本人の身体状況により調整し正しく、楽な姿勢に調節してください。

ご使用になる前に

警告



強制

- 取扱説明書の内容を理解・実行できない方には、操作させないでください。
取扱説明書には安全に使用する上での重要な事項が書かれています。この内容を理解し、実行できない方が操作すると、事故の原因となります。
- 使用前に必ずスリングシートにほつれ、傷、破れがないかを点検してください。
- 吊り上げるとき、スリングシートにしわやねじれがないか注意してください。
しわやねじれがあると、乗っている方が痛みを覚える原因になります。
- 人以外のものを吊り上げないでください。
スリングシートの破損につながります。

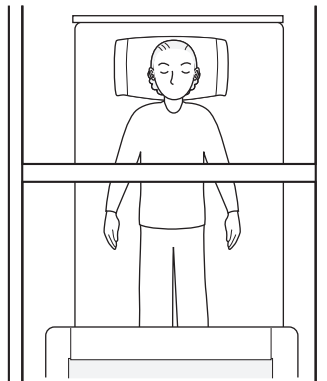
スリングシートの使い方

⚠ 注 意

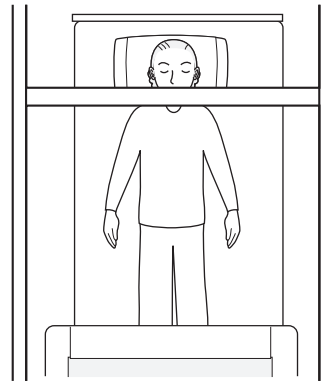


- スリングシートの外側と内側を間違えないでください。
ネームタグがついている方が外側になります。
- スリングシートの頭部側と脚部側を間違えないでください。
ネームタグがついている方が頭部側になります。
事故・ケガの原因になります。
- リフトに人を乗せるときは、レールの真下の位置で乗せてください。

良い例 ○



悪い例 ×



車いす（背上げ機能のあるベッド）

脚分離型スリングシート

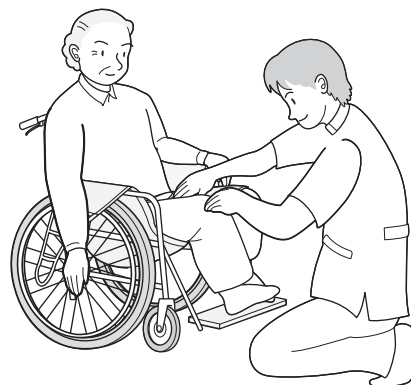
- ① スリングシートはタグがついている面が外側（身体に当たらない面）になります。
- ② スリングシートを広げ、頭と背中の上に置きます。
- ③ 身体を前傾させ、片手で支えながらスリングシートを背中に差し込みます。スリングシートを身体に沿わせるようにしながら、スリングシートが座面に着くまで差し込みます。
- ④ スリングシートの中央が背中の上になるようにしながら手を引き抜き、身体を戻します。



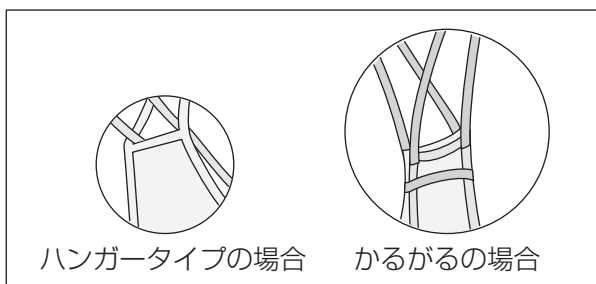
- ⑤ 脚あて布の下を持ち、車いすの肘かけ部分と大腿（太もも）の間を通し前方へ引き出します。
脚ストラップが2本とも同じ長さになっているか確認します。



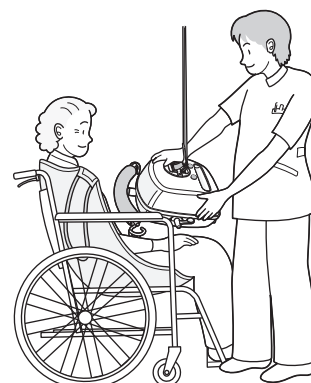
- ⑥ スリングシートを大腿（太もも）の下を通し、内側から引き出します。
この時大腿（太もも）の下にしわを作らないようにたるみを取り、できるだけ股寄りに近づくように引き出します。



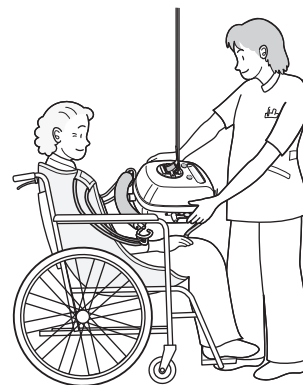
- ⑦ 脚ストラップを他方の脚ストラップ通しに通します。



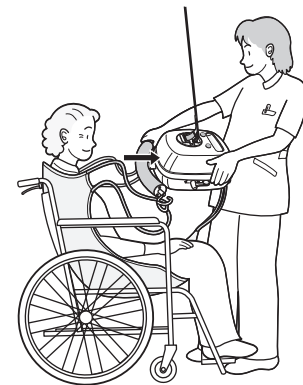
- ⑧ リフト本体をご利用者のお腹のあたりまで下げます。



- ⑨ 肩ストラップ、脚ストラップをフックに掛けます。乗っている方の腕はスリングシートの内側へ入れ、手の位置は膝の上かストラップを持つようにします。ストラップがフックにしっかり掛かっているかを確認してください。



- ⑩ リフトを上昇させます。リフト本体が頭部の近くを通過するので、通過するまでは介護者がリフト本体を手で引っ張るように頭部から離してください。



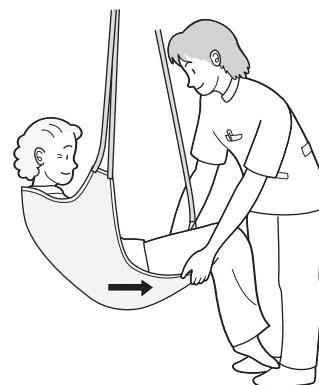
警告



強制

●リフトが頭部の近くを通過ときは、本体を必ず手で引っ張り、頭部から離してください。

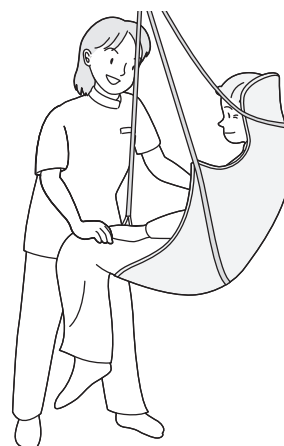
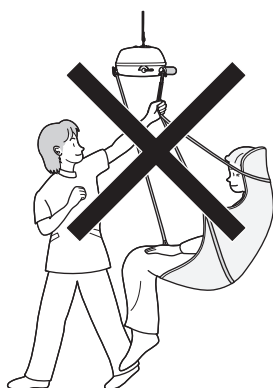
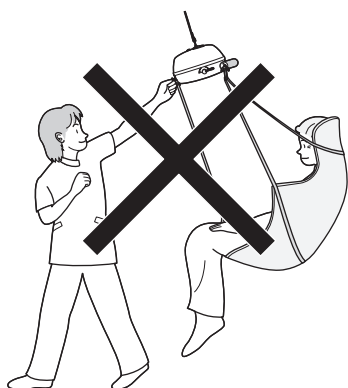
- ⑪ 身体を完全に上げる前に、スリングシートにしわがないかを確認します。しわが寄っていたらスリングシートを引き、しわを伸ばすかもう一度車いすに降ろし装着し直します。



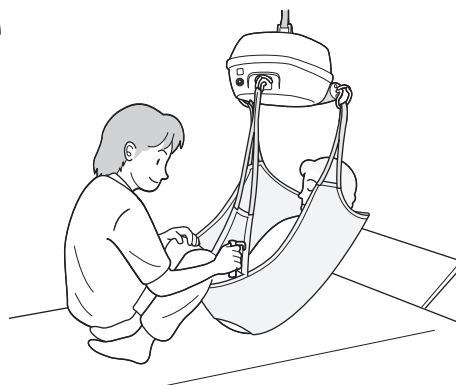
- ⑫ ご利用者の上腕部を前に引いて「肩抜き」をします。これにより上腕部の圧迫がとれます。



- ⑬ 移動するときは必ずご利用者の身体を抱いて移動します。リフト本体を持って移動させたり、スリングシートのストラップで移動するようなことをしないでください。

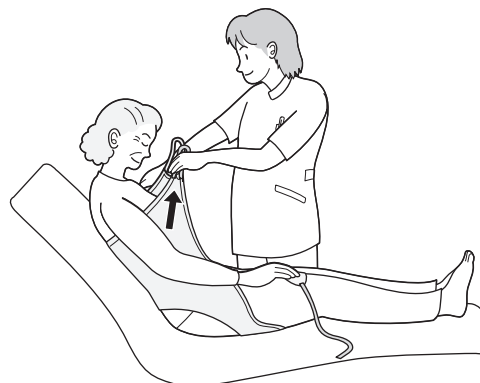


- ⑭ 臀部（お尻）の位置が適切な位置にくるように降ろしていきます。



脚分離型トイレスリング

- ① 肩ストラップを腋下(わきの下)に入れてください。(両側とも同じようにしてください。) 両端を持ち、しっかりわきで挟めるように、少し持ち上げます。



警告

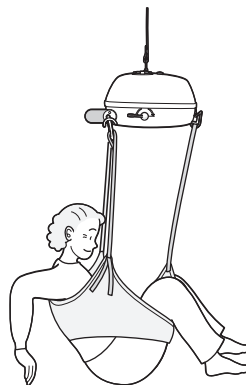


- トイレスリングは、脚や腋下（わきの下）の負担が大きくなります。肩が持ち上げられ、臀部（お尻）が落下した姿勢になることがあります。もう一度車いすに降りしスリングシートを装着し直してください。

良い例 ○



悪い例 ×



警告



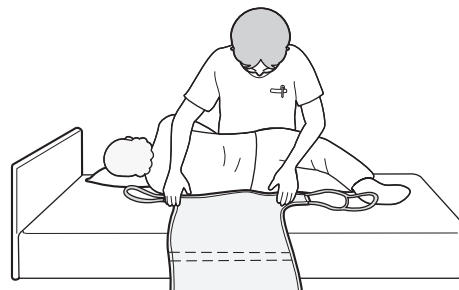
- 座る姿勢がとれない方は、トイレスリングを使って移動することはできません。

布団やベッド

- 1 自分向きの側臥位（横向き）にして、スリングシート
の縁を身体の下に差し込みます。

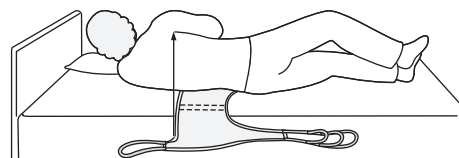
ローバックの場合

臀部（お尻）より少し下（足側）にくるようにします。



トイレスリングの場合

肩ストラップが、腋下（わきの下）にくるようにします。

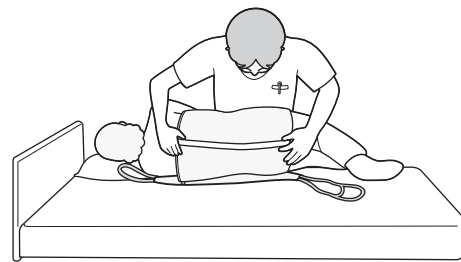


警告

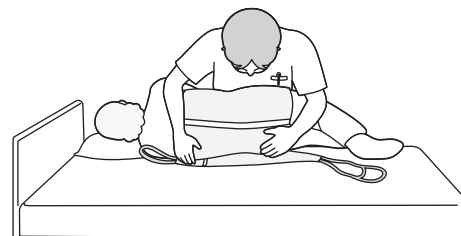


- 肩ストラップをはさむのが、腋下（わきの下）よりも低い位置だと吊り上げたとき体が反り返って落下する恐れがあります。必ず腋下（わきの下）ではさんでください。

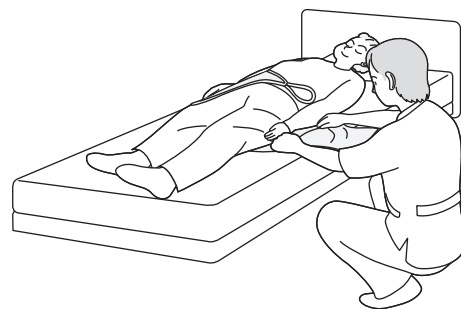
- ② スリングシートを身体にかけ、スリングシートのセンターと背骨を合わせます。



- ③ スリングシートのたるみをとるように身体とベッドの間に押し込みます。

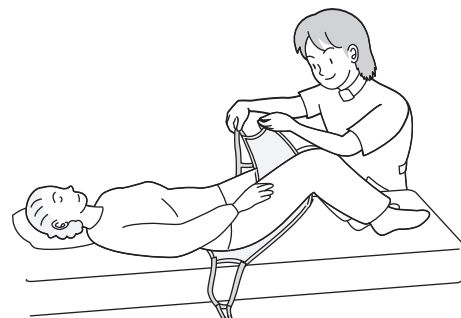


- ④ 仰臥位（あおむけ）に戻し、身体の下からスリングシートを引き出します。



- ⑤ スリングシートがセンターにあることを確認します。

- ⑥ 股の下を通し、脚ストラップをもう片方の脚ストラップ通しに通します。



ハイバックスリングの場合

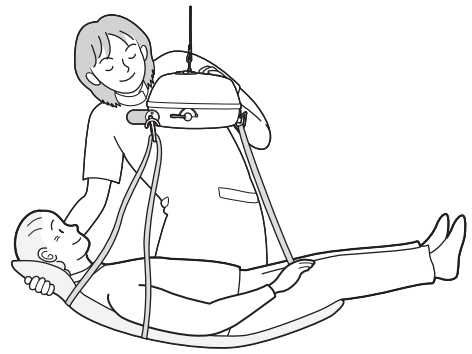
- ⑦ へ

ローバック、トイレスリングの場合

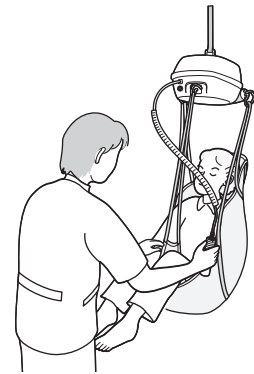
- ⑨ へ

ハイバックの場合

- ⑦ ストラップをハンガーに掛けたらリフト本体を上昇させます。吊り上げはじめるに頭部を片手で支えるようにします。



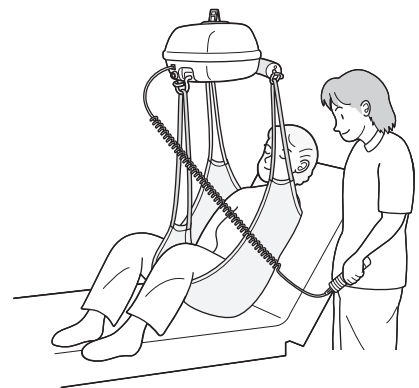
- ⑧ 介助者は股の下にしわを作ったり、スリングシートが股に食い込まないように、前方へ脚ストラップを引っ張りながら吊り上げます。



以下車いす（P10 ⑪～）と同じ

ローバック、トイレスリングの場合

- ⑨ ベッドの膝と背をご利用者が苦しくない程度に上げます。
- ⑩ ストラップをハンガーに掛けたら、リフト本体を上昇させストラップがピンと伸びるまで上昇させます。
- ⑪ スリングシートの股の下のしわをとり、股に食い込まないように軽く膝を立ててスリングシートを膝側に引っ張ります。
- ⑫ ご利用者の肩に手を入れて、リフト本体を上昇させながらご利用者の上半身を起こします。
- ⑬ 完全に吊り上げる前に上腕部を前に引いて「肩抜き」をし、股の下にしわがないことを確認します。
- ⑭ 臀部（お尻）が浮き上がる程度に上昇させたら、足首を持ち上げてベッドの外に出し、身体を抱いて移動します。

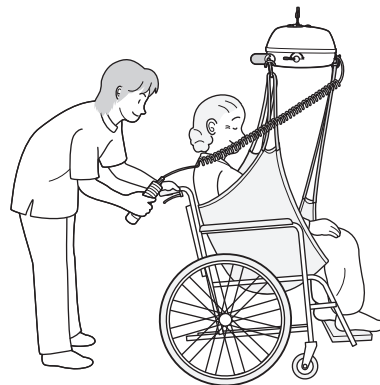


車いすへ降ろす

スリングシートの種類には関係なく共通した方法です。

後方からキャストターを上げて着座

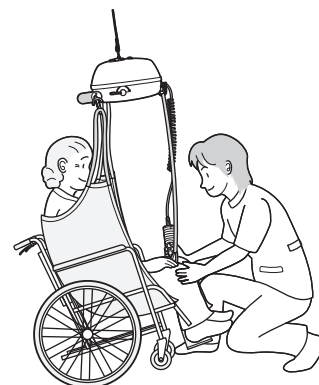
- ① 車いすのレッグサポートを外し（外せなければそのまま）ブレーキを解除します。
- ② 両手で車いすの取っ手を持ち、キャストターを上げます。



- ③ 膝裏から車いす座面に接するくらい車いすを傾け、臀部（お尻）が車いすの背もたれを滑り落ちるようにします。
- ④ 座面に臀部（お尻）がついたら、リモコンを押し続けながら車いす後方に少しずつ移動させ、キャストターをゆっくり降ろします。
このとき本体が頭に近づきますので、ぶつからないように注意してください。

前方から膝を押して着座

- ① 車いすのレッグサポートを外し（外せなければそのまま）ブレーキをかけます。
- ② ご利用者の前に立ちます。
- ③ 座面から15cmほど上まで降りてきたら、前から膝を押します。
背中が背もたれにあたって車いすのキャストターが浮き上がるようにします。
- ④ 座面に臀部（お尻）がついたら、リモコンを押し続けながら、キャストターをゆっくり降ろします。
このとき本体が頭に近づきますので、ぶつからないように注意してください。



介助バンドを引いて着座

スリングシートの種類によっては介助バンドがないものがありますのでご確認ください。

- ① 車いすのレッグサポートを外し（外せなければそのまま）ブレーキをかけます。
- ② ご利用者の後に立ちます
- ③ 座面から15cmほど上まで降りてきたら、スリングシートの介助バンドを後方（背もたれ側）に引きながら着座させます。



前方からキャスターを上げて着座

- ① 車いすのレッグサポートを外し（外せなければそのまま）ブレーキをかけます。
- ② ご利用者の前に立ちます
- ③ 両手で車いすのフレームを持ち、キャスターを上げます。
- ④ 膝裏から車いす座面に接するくらい車いすを傾けます。臀部（お尻）が車いすの背もたれを滑り落ちるようにします。
- ⑤ 座面に臀部（お尻）がついたら、リモコンを押し続けながら、キャスターをゆっくり降ろします。
このとき本体が頭に近づきますので、ぶつかからないように注意してください。

リクライニング機能付き車いすの場合

- ① 車いすのブレーキをかけます。
- ② 背もたれを倒し、ティルトできる車いすはティルトしておきます。
- ③ 背もたれの角度は吊り上げたときの姿勢より少し倒しておくと楽に着座できます。
- ④ 臀部（お尻）の位置が合うように降ろします。着座してから背を起こします。

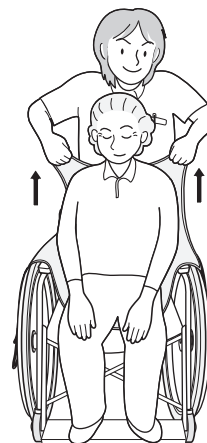
スリングシートのはずし方

スリングシートの外し方は、背上げ機能のあるベッド、車いす上では基本的に同じです。車いすの場合、アームレストやブレーキなどに引っかからないように注意してください。布団やベッドの場合、皮膚が弱い方、床ずれがしやすい方は装着と逆の手順で丁寧に外してください。床ずれ等の心配がない方は下記の方法でスリングシートを外します。

- ① リフト本体を下降させます。頭部の近くを通過するとき、本体を手で引っ張りながら腹部のあたりまで下げてください。肩ストラップ、脚ストラップを本体のフックから外し、リフト本体は遠くへ離します。
- ② 脚あて布を大腿（太もも）の下から外し、上に引っ張るとスリングシートが簡単に抜けます。



- ③ 背中からスリングシートを引き抜きます。

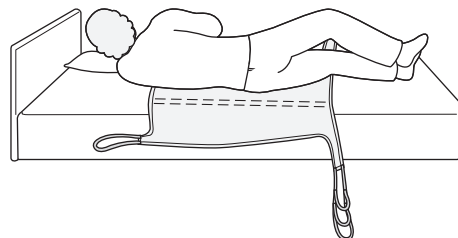


- ④ 衣服を整えます。

特殊なスリングシートの場合

シート型スリング

- ① ベッド上で装着します。
- ② 自分向きの側臥位（横向き）にして、スリングシートの縁を身体の下に差し込みます。
- ③ 上下の位置は足側のストラップが膝裏にくるようにします。
- ④ スリングシートを身体にかけ、センターと背骨を合わせます。
- ⑤ スリングシートのたるみをとるように身体とベッドの間に押し込みます。
- ⑥ 仰臥位（あおむけ）に戻し、身体の下からスリングシートを引き出します。
- ⑦ スリングシートが身体のセンターにあることを確認します。

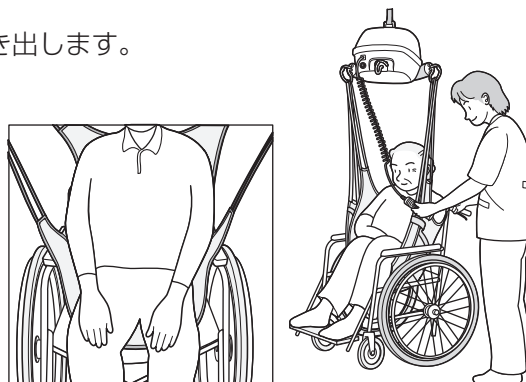


※シート型スリングは、車いす上でのつけ外しはできません。

以下、P14 ローバック、トイレスリングの場合 ⑨～⑭と同じ。

切断者用スリング

- ① 脚あて布を両方の脚の下を通し、反対側へ引き出します。



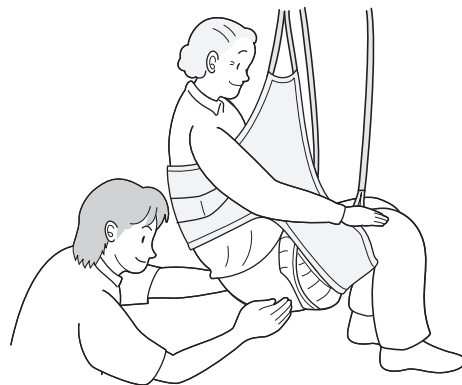
トイレでのスリングシートの使い方

フルスリング・ローバックスリングの場合

- ① 下半身を脱衣してからスリングシートを装着します。
トイレが室内にない場合はバスタオルなどを掛けます。
- ② トイレに座ったら、スリングシートを外します。
便器にストラップが落ちないように注意してください。

トイレ用スリングの場合

- ① 衣服を着たままスリングシートを装着し、トイレに座る前に臀部（お尻）の部分で脱がせます。
吊り上げてパンツをはかせる場合は、丁寧にパンツを丸めるように脱がせます。



- ② トイレに座ったらスリングシートを外します。
- ③ 衣服を膝まで降ろします。
- ④ トイレが済んだら、衣服をできるだけ引き上げ、脚ストラップを装着します。
- ⑤ リフト本体で吊り上げ、衣服を引き上げます。
- ⑥ ベッドなどに一度降ろし、衣服をきれいに整えます。

警告



強制

●トイレスリングは、脚や腋下（わきの下）の負担がフルスリングやローバックスリングより大きくなります。
肩が持ち上げられ、臀部（お尻）が落下した姿勢になることがあります。もう一度ベッドに降ろしスリングシートを装着し直します。

入浴でのスリングシートの使い方

入浴の方法は各個人・施設によってさまざまですが、基本的に下記の点を参考にしてください。

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------|
| (1) どこで脱衣するか | (4) 身体を洗う手順 | (7) 着衣の手順 |
| (2) どこでリフトに乗るのか | (5) 浴槽に入るかどうか | |
| (3) どこで洗うのか | (6) どこで身体を拭くか | |

下記に一般的な手順を紹介します。

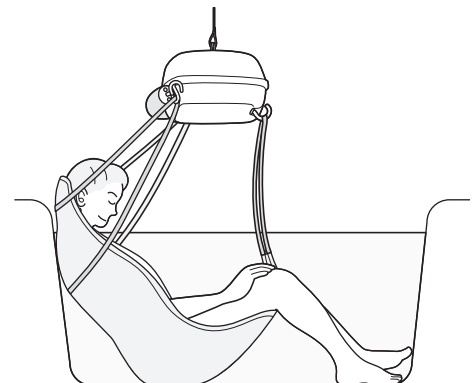
- ① あらかじめベッド等で脱衣しておき、浴室までリフトで移動します。
身体はバスタオルなどで覆います。



- ② 浴室ではシャワーチェアに座らせて洗体をします。



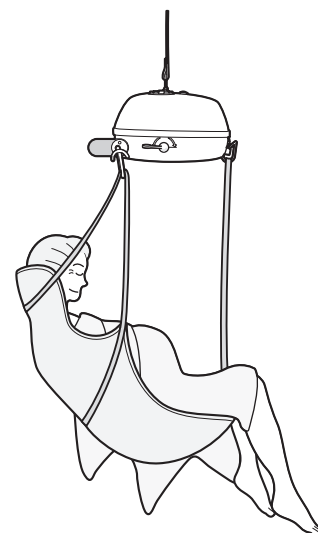
- ③ 浴槽へ入ります。背中が浴槽にもたれかけられるように臀部（お尻）の位置を決め降ろします。
身体に浮力があり、臀部（お尻）の位置がだんだんずれてしまうような時には、ひざを抑えずれを防止します。
浴槽内では、スリングを外さないでください。水中でスリングシートを装着することはできません。



- ④ 浴槽から出たら、スリングシートが濡れているので、吊り上げた姿勢のまま、バスタオルなどで水気をとってください。



- ⑤ 身体にバスタオルをかけ、浴室を出ます。最初に降りる場所にバスタオルを敷いてから降りし、そのまま身体を拭いてください。車いすに降りてから再度リフトで移動する場合、乾いた別のスリングシートをご使用ください。



⚠ 注 意

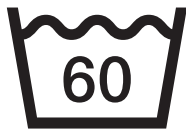





禁止

- 浴槽の中でスリングシートを正確に装着することは困難です。スリングシートを付けたまま入浴することをお勧めします。
大腿（太もも）の下のしわを取り除いたり、臀部（お尻）を深く覆うことは浴槽の中では困難です。
- 床ずれがあるときは、スリングシートを強く引っ張らないでください。
床ずれを悪化させる恐れがあります。
- 性器をスリングシートではさまないでください。
男性の場合は性器をスリングシートではさまないよう注意してください。

お洗濯・点検／保管

洗濯表示に従って洗濯をしてください。

| | | | |
|---|---|---|--|
|  |  |  |  |
| 液温は60℃まで 洗濯機可 | 塩素系漂白剤 使用禁止 | タンブル乾燥 禁止 | アイロン掛け 禁止 |

- 液温は60℃を限度とし、普通の操作で洗濯機による洗濯ができる。
- 漂白剤による漂白ができない。
- タンブル乾燥ができない。
- アイロン掛けはできない。

スリングシートの種類によっては背面にステアが入っています。

お洗濯の際は、このステアを抜いて洗濯をしてください。

警 告



- 塩素系漂白剤は絶対に使用しないでください。
生地が傷み、ほつれや破れなどの原因になります。

点検／保管

- ほつれ・切れ目
ご使用前にスリングシートにほつれ、破れがないか必ずご確認ください。ほつれ、破れがある場合、新しいものをお求めください。
- 保管方法
直射日光を避けて保管してください。



株式 竹虎[®]
会社
ヒューマンケア事業部

〒246-0001 神奈川県横浜市瀬谷区卸本町 9279-69

商品に関するお問い合わせ
受付時間 / 平日9:00～17:00

無料
通話

0120-798-777

URL <http://taketora-web.com/> **E-mail** info@taketora-web.com